

学外研修報告

フィールド科学系部門 生物科学班 山口信雄

1. はじめに（目的等）

生物学技術研究会は、大学及び研究機関等の生物学の研究分野に携わる技術職員が日常関わっている実験、機器操作及び施設管理などの幅広い技術活動での成果や問題点を発表し、また、討論することにより技術の向上と交流を図ることを目的としている。

2. 期間・場所

期間：平成31年2月14～15日

場所：岡崎3機関コンファレンスセンター（愛知県岡崎市）

3. 参加者等

全国の技術系職員140名程度（同時開催の生理学研究会参加者含む）

4. 研修内容

全国の技術系職員より、主として生物に関わる技術発表が口頭発表で26題、ポスター発表で50題行われた。さらに特別講演として電子顕微鏡とその管理体制に関する講演が行われ、意見交換会でも活発な交流が行われた。本研究会において、報告者は質量分析に関する技術的な知見に関するポスター発表を行った。

5. まとめと感想

例年通り生物学および周辺領域に関する広範な技術発表・討議が行われた。自身の発表に関しては、処理中にゲルからタンパク質が抜け落ちるという事は盲点であり想定したくない事態だが、タンパク質ごとの流出量の差がこれほど大きいとは思わなかったという反応を多く頂いた。

他者の発表で特に興味深かったものは TLC（薄層クロマトグラフィー）から LCMS（液体クロマトグラフ質量分析装置）への直結で、省力化や装置の汚染防止という観点からも有効であると感じた。装置構成上すぐに現業務に適用することはできないが、こういった知識・技術のポケットを増やして将来に備えておくことは悪くないと考えている。また、マウスやラットへの麻酔等を必要とする装置を担当しているが、一部の学生に腹腔注射や保定の技術が十分備わっておらず、実験動物が死に至るケースを見ることがあった。今回の発表で近年の規則に沿った手技の動画をまとめた新しい教材が販売されていることを知り、購入して自由に視聴できるようにしておきたいと感じた。東広島では手技に関する講習会が無いことから、有効性は高いと思われる。新規利用者へのアンケートなどを通じて購入する必要性を確認してみたい。